

参考プリント 天気の様子について (教科書 p.156~p.158)

目標：天気の様子を覚えよう！

はじめに

Aさん「今はくもりだね。洗濯物を干したいけど、このあと雨がふるのかな？」

Bさん「天気予報では夕方から雨みたい。洗濯物は干さないほうがいいね。

買い物に出かける時は、折りたたみのかさがあると安心だね。」

ふだんの会話や、天気予報でよく耳にしたり目にする「くもり」ですが

そもそも「くもり」ってどうやって判断しているか知っていますか？

じつは、空に広がっている雲の量を**目視で判断**しているのです。

(ちなみに、雲の量を雲量(うんりょう)という)

気象庁ではたらいっている人が、決まった時間に屋上に出て、空を見上げて雲量を目で確認し
天気を判断しているのです。しかし、去年から一部の地域では、人の目ではなく、機械による自動での測定に切り変わったところもあるそうです。

では、具体的にどうやって判断するのか？

天気と雲量の関係について詳しく見ていこう！

と、その前に

Aさん Bさんの会話はまだ終わってないみたいです。

Aさん「そうね。かさを持っていくわ。

でも、風は強いのかしら？かさよりカッパの方がいいかしら？」

Bさん「夕方からは風が強くなるみたい。

北からの冷たい風だから、上着も必要ね。」

ここで出てきたキーワードは**風**

風の強さを**風力**（ふうりょく）、風のふいてくる方向を**風向**（ふうこう）といいます。

じつは、**風力**は風のふきぐあいで**13段階**に分けられています。

また、**風向**は東・西・南・北の4つではなく、さらに細かく**16方位**で示されます。


これまでにでてきた **天気・風力・風向**

これらは、ある記号を使うことで

3つまとめて表すことができるのだ！

ここでは、

天気と雲量の関係

天気・風力・風向をまとめて表せることができる記号  を見ていこう！

《 天気と雲量の関係 》

空を見上げたとき、雲量を（少ない）0～10（多い）として
雲量により、天気を判断する。

天気	快晴	晴れ	くもり	雨	雪
雲量	0～1	2～8	9～10	—	—

《 天気の記号 》

天気は右のような記号で表すことができる。

天気	記号
快晴	○
晴れ	⊕
くもり	⊙
雨	●
雪	⊗

《 風力の記号 》

風力は0～12の13段階である。

それぞれ下のような記号で表すことができる。○の部分は天気を表している！

風力	記号	風力	記号
0	○	5	○
1	○	6	○
2	○	7	○
3	○	8	○
4	○	12	○

ポイント

角度をまちがえないように
しよう。



矢ばねの形を
イメージ
しよう。

左からではないよ。



右からと
決まっ
ているよ。

《 風向の表し方 》

風向は16方位で示す。

風向は、風力の記号の向きで

表すことができる。

【16方位】



例)



おまけ ～覚え方～

風はどっちから吹いている？

その場に、自分が立っています。

○は、上から見た時の自分の頭です。

矢の方向を見てみましょう。

向かい風になるので、前髪がなくなりオールバックに！

実際に書いて覚えていこう！

それでは、天気の見方の課題をやってみよう！